



平成28年度特別展

「現代有用植物展～くらしと植物のステキな関係～」見どころ紹介



木山 加奈子

有用植物ってなんだろう

有用植物とは、「役に立つ植物」のことです。私たち人間は、古くから植物を利用してきました。生活の変化で見えにくくなっているものもありますが、今でも身の回りには、たくさんの植物が様々な形で使われています。

埼玉にも、古くから連綿と続く風土に根ざした植物の利用や、植物と生きるための新しい取り組みが数多くあります。そんな埼玉ゆかりの「役に立つ植物」と、それに関わる人々の取り組みをご紹介しますと企画したのが、9月24日（土）から始まる特別展「現代有用植物展～くらしと植物のステキな関係～」です。今回の特別展は、普段の企画展で使用している2階の企画展示室を飛び出して、1階の常設展示室にまで進出します！

秩父のメープル、西川林業、細川紙をイメージした3体のキャラクターがご案内します。



いたやん

西川親方

細川さん

くらしの中の植物

1階の常設展示室では、県内の自然を紹介する生物展示ホールの大ジオラマを活かし、平野、台地・丘陵、山地それぞれに特徴的にみられる、風土に根ざした植物の利用をご紹介します。広大な水田が広がる平野部では、お正月料理で有名なクワイ、台地・丘陵では草原や雑木林などの土地利用の変遷と植物、山地では山菜やきのこなどを取り上げます。みなさんがお住まいの地域の植物の利用についても、新たな発見があるかもしれません！？また、スギ・ヒノキの木材から布をつくったり、木の器を藍染めしたりといった、ちょっと意外な利用も取り上げます。

人と植物のステキな関係（1）植物と生きる人々

2階企画展示室は、大きく2つのコーナーに分けられます。そのひとつが、「植物と生きる人々」。秩父の樹液生産、西川林業、小川和紙・細川紙の3本柱で、生活が近代化してもなお工夫を重ねて生き続ける、植物に関連する産業を取り上げます。

①秩父の樹液生産

秩父の樹液生産は、様々なメディアに取り上げられ、全国的に有名になりました。しかし、どうしてこうした取り組みが始まったのか、また実際どのように生産されているかをご存知の方はあまり多くないように思います。最近新たに取り組み始めたキハダの利用も含め、秩父の山と、山の暮らしの持続性を見据えた取り組みをご紹介します。



薬用植物としても知られるキハダ

②西川林業

西川林業は、入間川（名栗川）、高麗川、越辺川流域（現在の飯能市、日高市、毛呂山町、越生町にまたがる地域）で行われている、江戸時代から知られる埼玉が誇るブランド林業です。江戸に近いという地の利に加え、間伐（植えた木の間引き）などの手入れをしっかりと行い、優れた品質の材を産出することで知られています。

近年は、安価な外材の大量輸入により日本林業全体が苦しい状況におかれる中、木の良さを知ってもらうための取り組みや、間伐材を使って新たな製品を生み出すなどの工夫を重ねています。普

段なかなか比べる機会のない枝打ちをした木としていない木の違いや、西川林業独自の風習などをご紹介します。

### ③小川和紙・細川紙

埼玉県では、古くから各所で和紙の生産が行われてきました。その中でも現在まで生産が盛んであり、よく知られているのが小川町や東秩父村で生産される小川和紙です。中でも、伝統の製法と道具で作られ続ける和紙は細川紙と呼ばれ、1978年に国の重要無形文化財に指定され、2014年にはユネスコ無形文化遺産にもなりました。

世界に認められた細川紙がどのような植物からどのように作られるのかをご紹介します。また、地元のコウゾで和紙を作りたいという想いでコウゾづくりをしている方々の取り組みなど、伝統の和紙生産の「いま」をお伝えします。

### 人と植物のステキな関係（2）暮らしを彩る植物

高度経済成長期以降、身の回りには石油製品が増え、わざわざ自然の素材を手間をかけて使わずとも、暮らしに不自由しなくなりました。しかし、身の回りの植物は、暮らしにあたたかみや彩りを添えてくれます。本コーナーでは、そんな「暮らしを彩る植物」をご紹介します。

古くから秩父地方に伝わってきた背負い編み袋「スカリ」や、オカメザサのササかごといった工芸品や、アイ（藍）やムラサキ（紫）などの染料植物を扱います。



いろいろなスカリ作品

また、園芸植物も見どころのひとつです。現代でもガーデニングを楽しむ方は多いと思いますが、実は日本人は昔から園芸植物が大好きでした。特に江戸時代には、在来の植物を中心に多様な園芸品種が生み出され、庶民にまで浸透していました。展示では、この中でも埼玉にゆかりの深いフクジ

ユソウとサクラソウを取り上げます。

本展では、江戸時代に将軍に献上されたフクジュソウの園芸品種を描いた「珎花福壽草（ちんかふくじゅそう）」という和本を展示します。この中には秩父ゆかりの「秩父紅（ちちぶべに）」という園芸品種も描かれています。本資料は期間を定めて展示しますので、ホームページなどで展示期間をご確認の上、お出かけください。

企画展示室内には、県内で作られた木のおもちゃで遊べるコーナーも設置しますので、小さなお子様にも楽しんでいただけます。

生活の変化とともに形を変えながらも、私たちの身の回りにある植物。本展が、そんな植物たちに目を向けるきっかけになれば幸いです。



『珎花福壽草』より「ちちぶ紅」  
千葉県立中央博物館所蔵

(きやま かなこ・学芸員)